菜の花米 ブランド化
城西大の学生ら協力

川越市の若手米農家、田中洋史さん（37）が減農薬、無化学肥料で栽培した「菜の花米」を、母校である城西大学（坂戸市）の学生などに協力を得てブランド化。500㌘の小袋にして、今春から販売を始める。田中さんは「川越のお米を地域の特産品に育てたい」と夢を抱く。（田付智大）

川越の若手農家 田中さん

田中さんは同市下小坂で明治から続く農家の6代目。ただ、農業に携わっていたのは4代目の祖父知二さん（92）までで、自身も大学卒業後は川越地区消防組合に就職。13年間勤務した。だが、少年時代から農業への憧れを抱いていたため、組合を退職して就農を決意。2020年4月、専業の米農家「Tomozy's Farm」として再出発した。名称は引退した尊敬する知二さんにちなむ。

新たに市内の大東地区で耕作放棄地だった水田を借り、そのうち2・5㌶は菜の花を使って減農薬、無化学肥料の米を作ることにした。田んぼに鋤き込まれた菜の花は、腐るときに除草効果がある有機酸を放出するという。田中さんは20年秋に菜の花の種をまき、準備をスタート。21年春に彩のかがやきの苗を植え、秋に約6㌧を収穫した。

次の課題は、販売方法だった。

田中さんは学生時代のゼミで指導を受け、卒業後も交流があった城西大学経営学部の辻智佐子教授（52）に相談。現役のゼミ生が協力することになった。辻教授は「貴重な学習機会になるので、学生たちも巻き込んだ」と話す。

検討を重ね、対象は健康に敏感な女性とし、持ち帰りやすい重さ500㌘に設定。袋には辻教授が描いた菜の花のイラストを使い、「菜の花米」の文字は田中さんが子どもの時に習った地元の書家樫又閑村氏に依頼した。

米は3月末ごろから、市内のカフェなどで販売予定。発売期間限定価格は税込み500円。

将来は農場の法人化を目指す田中さん。「皆さんの体に入るものを作る大切な仕事。農業がもっと評価されるようにしたい」と目標を語った。

菜の花米の問い合わせは、田中さん（☎080・1236・8659）へ。

ブランド化した米の販売を始める田中洋史さん（中央右）、協力した辻智佐子教授（同左）と「Tomozy's Farm」のスタッフ＝川越市下小坂

減農薬、無化学肥料で育てた彩のかがやきと「菜の花米」のパッケージ

「涙出るほどうれしい」
熊谷ラグビー場で映画祭

熊谷市上川上の熊谷ラグビー場で20日、「第1回ラグビー場映画祭」が行われ、利根川を挟んだ隣の群馬県太田市や大泉町が舞台の映画「グラス☆ホッパー」が上映された。ラグビーを題材にした映画で、出演者で立正大学ラグビー部4年の田中裕人さん（22）やプロデューサーの宮地克徳さん（52）によるトークショーも実施された。

映画上映後、トークショーを行った（左から）臼杵健さん、田中裕人さん、宮地克徳さん＝20日午後、熊谷市上川上の熊谷ラグビー場

田中さんは同部の大東地区で耕作放棄地だった水田を借り、そのうち2・5㌶は菜の花を使って減農薬、無化学肥料の米を作ることにした。田んぼに鋤き込まれた菜の花は、腐るときに除草効果がある有機酸を放出するという。田中さんは20年秋に菜の花の種をまき、準備をスタート。21年春に彩のかがやきの苗を植え、秋に約6㌧を収穫した。

次の課題は、販売方法だった。

田中さんは深谷市出身。中学時代に映画のオーディションに参加し、ラグビーチームの主将役に選ばれた。本庄第一高校を経て、同大ラグビー部で寮長を務め、関東大学ラグビーリーグ戦で8季ぶりの1部昇格に貢献した。

大型ビジョンで映画上映後、田中さんと宮地さんは撮影時のエピソードなどを披露。宮地さんは映画製作の経緯などを紹介し、「ワールドカップが開催された熊谷ラグビー場で上映され、涙が出るほどうれしい。熊谷で続編も考えたい」と語った。田中さんは「中学3年間は映画漬けだったが、いい経験になった。大学は卒業するが、これからは後輩たちを応援してほしい」と話した。

主催した熊谷ラグビー合唱団団長の臼杵健さん（45）は「今後も続けていければ」と話していた。（桜井和憲）

コロナに
川越高応援部 八幡宮で演舞

県立川越高校応援部は19日、川越市南通町の川越八幡宮（榊原祥光宮司）に「コロナに勝つ」の願いを込めた巨大「勝」文字（縦横各1・8㍍）と演舞を奉納した。

コロナ禍で市内のさまざまな事業やイベントが中止を余儀なくされている。今年は市制施行

奉納し
＝19日

地域に寄り添うラジオ
FMクマガヤのキセキ　第2部　⑪

連載を振り返って

熊谷市のコミュニティーFM「FMクマガヤ」の連載第2部を担当した。第1部はFMクマガヤ社長の宇野元英さん（43）が開局の軌跡をたどったのに対し、第2部は個性豊かな番組を中心に紹介してきた。計10回掲載した第2部を改めて振り返ってみたい。

初回に取り上げた番組は「地域に広がれ、子育てのわ！」。熊谷市のNPO法人子育てネットくまがやが運営する市地域子育て支援拠点「くまっぺ広場第2」の地域支援事業で実施している。新型コロナウイルスの影響で、一時は子育て支援拠点が閉鎖されたが、行き場を失った母親たちにメッセージを届けていた。

「ラジオは子育て支援の新しい武器」。同NPO代表理事の大崎幸恵さん（58）が話していた言葉が印象に残った。子育て中は決まった時間に定位置に座ることが簡単ではないが、ラジオは家事をしながらでも気軽に聴ける。この取材をきっかけに、2月に100回目を迎えた「オンラインくまっぺ広場」を記事化できたのは思わぬ副産物だった。

石田克己熊谷駅務区長兼熊谷駅長（中央）にインタビューするFMクマガヤの吉田香さん（右）と高井昭博さん＝19日、熊谷市の秩父鉄道熊谷駅

2回目に登場したラグビー応援番組「楕円だえん」にのってどこまでも～トラ！トラ！トライ！」も印象深い。当初は1月16日に開催予定だった埼玉パナソニックワイルドナイツの熊谷開幕戦直後の掲載日だったが、チームで新型コロナウイルスの陽性者が確認されて試合が中止に。少し慌てたが、現在はそんなことを忘れるほどの連勝が続いている。

6回目に紹介した「乗ってみんぺぇ　ちちてつトコトコ」は秩父鉄道の情報などを発信する番組で、出演するFMクマガヤパーソナリティーの吉田香さん（53）と斎藤裕子さん（36）は「ちちてつ応援コンシェルジュ」も務める。19日はSLパレオエクスプレスの今シーズンの運行開始も熊谷駅で生中継しており、臨場感たっぷりに伝えていた。

取材で感じたのはラジオと地域との距離の近さ。これからも地域に寄り添う放送を楽しみにしたい。（桜井和憲）

県北

県西

本社　さいたま市北区吉野町2-282-3　TEL048-795-9161　FAX048-653-9040
編集局　熊谷市宮町2-122 第一宮町ビル2F　TEL048-521-1081　FAX048-521-1540
県北支社
県西支社
✉ dokusya@saitama-np.co.jp
広告のご用命　TEL048-795-9932

◇日高市人事（4月1日付）

【部長級】総務部長（市民生活部長）相磯剛啓▽市民生活部長（危機管理課長）渋谷秀一▽福祉子ども部長（総務課長兼選挙管理委員会事務局長兼監査委員事務局長）荻野毅▽都市整備部長（上・下水道部長）杉山一博▽上・下水道部長（水道課長）加藤正史▽市民生活部長（教育部長）国分央▽教育部長（政策推進課長）

渋谷秀一
市民生活部長

加藤正史上・
下水道部長

荻野毅福祉
子ども部長

国分央
教育部長

クリック

講師に
に自
いじ
つて
ふり
ると
掛か
が声
つな
者、
ていた